



コレクション展
鷗外の妹・喜美子の家族
—森家と小金井家—

2025年1月18日（土）～4月6日（日）
開催のお知らせ

文京区立森鷗外記念館では2025年1月18日（土）から4月6日（日）まで、コレクション展「鷗外の妹・喜美子の家族 —森家と小金井家—」を開催いたします。

小金井喜美子（1870～1956）は、森家4人きょうだいの第三子として現在の島根県津和野町に生まれました。東京師範学校附属高等女学校（現・お茶の水女子大学附属高等学校）に学んだ後、欧州文学の日本語訳を手がけ、随筆や小説、短歌を創作し、明治の女性文学者として評価されてきました。

女学校卒業を前に喜美子は、解剖学者で人類学者である小金井良精（1858～1944）と結婚しました。良精は長兄・鷗外の大学の先輩、また次兄・篤次郎の解剖学の教授であったという縁が喜美子の人生に小金井家という新しい世界をもたらしたといえます。結婚後は森家と小金井家を頻繁に行き来し、二つの家族の交流の要となりました。そうした中で鷗外は、喜美子の学業と執筆を応援し、また結婚後には家庭生活と文学活動の両立に悩む喜美子を見守り助言を与えるなど支え続けました。鷗外が喜美子へ書き送った言葉には、身内だからこそ率直さと共に、文学を志す仲間としての信頼が感じられます。

本展では喜美子の文学活動と、兄としてまた文学の世界における先輩としての鷗外の姿、喜美子を中心とした森家と小金井家の交流の様子を、喜美子の著作や鷗外ら家族の日記や書簡などの館蔵資料から紹介します。

■開催概要

展覧会名：コレクション展「鷗外の妹・喜美子の家族 —森家と小金井家—」

会期：2025年1月18日（土）～4月6日（日）計72日間

休館日：1月27日（月）・28日（火）、2月25日（火）～27日（木）、3月24日（月）・25日（火）

開館時間：10時～18時（最終入館は閉館30分前まで）

会場：文京区立森鷗外記念館 展示室2

観覧料：一般300円（20名以上の団体：240円）

※1月19日（日）は鷗外の誕生日を記念して観覧料無料

主催：文京区立森鷗外記念館



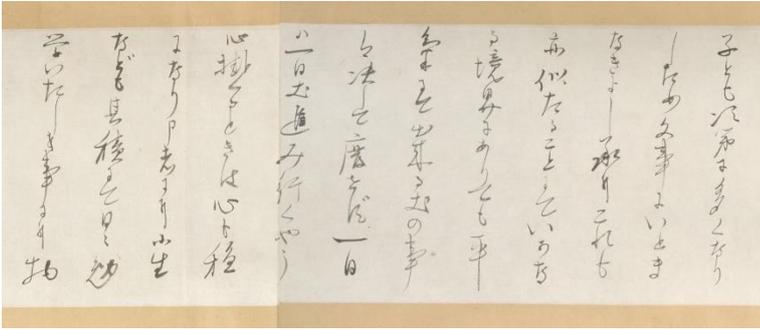
文京区立
森鷗外記念館
Mori Ogai Memorial Museum

報道関係のお問い合わせ

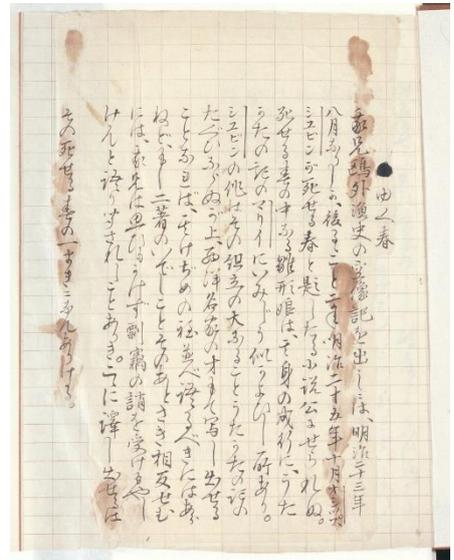
文京区立森鷗外記念館 広報担当：東聡子
〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4
☎ 03-3824-5511 FAX：03-3824-0123
Mail bmk-koho@moriogai-kinenkan.jp
URL <https://moriogai-kinenkan.jp>



■主な展示資料



【左上】 鷗外筆 小金井喜美子宛書簡(部分) 明治33年推定12月29日 赴任先の小倉(現・福岡県北九州市)から、「一日ハ一日丈進む行くやう心掛くるときは心も穏になり申者に候」と喜美子を励ます手紙。



【右】 小金井喜美子 自筆原稿『ゆく春』(部分) 明治31年頃 鷗外の勧めでオーストリアの作家シューピンの小説を翻訳したもの。



【左上】 観潮楼の玄関前にて 明治30年撮影 父・静男の一周忌記念。後列左より、次女を抱く喜美子、鷗外、3人おいて喜美子の夫・小金井良精。



【右上】 小金井喜美子『泡沫千首』私家版 昭和15年 70歳の時に出版した歌文集。序歌序文は与謝野晶子が手がけた。



小金井喜美子

1870(明治3)～1956(昭和31)年。小説家、翻訳家、歌人。

父・静男、母・峰子の長女として、現在の鳥根県鹿足郡津和野町に生まれる。1885(明治18)年、東京師範学校附属高等女学校入学、1888年に卒業。同年、小金井良精と結婚。1889(明治22)年、共訳詩集『於母影』に新声社同人として参加。その後、「しがらみ草紙」「文芸倶楽部」等に翻訳作品を、「スバル」「心の花」等に小説や随筆を発表するなど、晩年まで執筆活動を行った。著書に鷗外との思い出を綴った『森鷗外の系族』(1943年)『鷗外の思ひ出』(1956年)などがある。良精との間には、長男・良一、長女・田鶴、次女・精、次男・三二がいる。

画像：個人蔵

■ミニ展示ガイド発売

展示解説、資料キャプションなどを収録したミニ展示ガイドを、開幕日1月18日（土）より館内ショップにて販売予定です。通信販売にも対応しています。

B5判・12頁 価格：税込300円 発行日：2025年1月18日（土）予定

■関連事業

○講演会「小金井喜美子の歌世界」

講師：今野寿美氏（歌人、宮中歌会始選者）

日時：2025年3月8日（土）14時～15時30分

料金：無料（参加票と本展覧会観覧券（半券可）が必要）

※事前申込制

○ギャラリートーク

学芸員によるコレクション展ギャラリートーク

日時：2月12日（水）、3月12日（水）14時～（30分程度）

※申込不要、高校生以上は展示観覧券が必要。

■同時開催

コーナー展示「鷗外の弟・篤次郎と潤三郎」

コレクション展開催中の展示室1でのコーナー展示です。通常展観覧券でコレクション展とともにご覧いただけます。

会期：1月18日（土）～4月6日（日）の開館日

森鷗外とは

1862（文久2）～1922（大正11）年。陸軍軍医、小説家、翻訳家、医学博士。本名・森林太郎^{りんたろう}。現在の島根県鹿足郡津和野町に、津和野藩主・亀井家の典医を代々務めた森家の長男として生まれる。1872（明治5）年に10歳で上京。東京大学医学部を卒業後、陸軍軍医となる。1884（明治17）年、ドイツ留学。帰国後の1889（明治22）年に共訳詩集『於母影』^{おもかげ}を、翌年に小説『舞姫』を発表し文壇で名声を高めた。1907（明治40）年、陸軍軍医総監、陸軍省医務局長に就任。公務の傍ら、『青年』『雁』『山椒大夫』『高瀬舟』『渋江抽斎』などを執筆した。

文京区立森鷗外記念館とは

森鷗外が1892（明治25）年から没する1922（大正11）年までの30年間を過ごした、邸宅「観潮楼」^{かんちやうろう}跡地に建つ記念文学館。鷗外生誕150年目に当たる2012（平成24）年に開館した。敷地内には鷗外生前の風景を偲ばせる大イチョウ、庭石（通称「三人冗語の石」）、正門跡の敷石などが遺る。地下一階展示室で年間4回開催している企画展と、様々なイベントをとおして、鷗外の生涯や業績を顕彰している。